

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2021年6月14日

【四半期会計期間】 第21期第3四半期(自 2021年2月1日 至 2021年4月30日)

【会社名】 株式会社 L e T e c h
(旧会社名 株式会社リーガル不動産)

【英訳名】 LeTech Corporation
(旧英訳名 LEGAL CORPORATION)

(注) 2020年10月29日開催の第20回定時株主総会の決議により、
2021年2月1日から会社名を上記のとおり変更いたしました。

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 平野 哲司

【本店の所在の場所】 大阪府大阪市北区堂山町3番3号

【電話番号】 06-6362-3355 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 水向 隆

【最寄りの連絡場所】 大阪府大阪市北区堂山町3番3号

【電話番号】 06-6362-3355 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 水向 隆

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第20期 第3四半期 累計期間	第21期 第3四半期 累計期間	第20期
会計期間	自 2019年8月1日 至 2020年4月30日	自 2020年8月1日 至 2021年4月30日	自 2019年8月1日 至 2020年7月31日
売上高 (千円)	18,505,999	15,240,140	26,703,707
経常利益 (千円)	464,902	181,038	624,339
四半期(当期)純利益 (千円)	16	106,341	100,479
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	788,066	790,091	790,016
発行済株式総数 (株)	3,139,978	3,153,478	3,152,978
純資産額 (千円)	3,907,849	4,149,518	4,012,175
総資産額 (千円)	45,668,888	35,260,312	40,981,987
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	0.01	34.25	33.07
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	0.01	33.55	32.35
1株当たり配当額 (円)	-	-	6.00
自己資本比率 (%)	8.6	11.8	9.8

回次	第20期 第3四半期 会計期間	第21期 第3四半期 会計期間
会計期間	自 2020年2月1日 至 2020年4月30日	自 2021年2月1日 至 2021年4月30日
1株当たり四半期純損失 () (円)	14.63	59.48

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が提出会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により依然として厳しい状況にあるものの、各種政策の効果や海外経済の改善もあって持ち直しの動きが見られました。

しかし、4月以降3度目の緊急事態宣言が発出される等、感染症の更なる拡大・長期化も懸念され、景気動向の先行きは非常に留意が必要な状況が続いております。

この間、当社の属する不動産業界におきましては、政府による住宅取得支援策や低金利の住宅ローンなどにより住宅取得環境は依然として良好である一方で、用地取得競争の激化、建築費の高止まりなどの影響を受けております。更には2021年の公示地価が全用途において全国平均で6年ぶりに下落となり、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるサプライチェーンや工期の長期化、国内外含めた移動制限や経済縮小からの購買意欲の減退などが不動産市況に大きな影響を与えることが懸念されます。

このような事業環境の下、当社では経営計画に基づき、各目標数値達成に向けて取り組むとともに、財務基盤の強化、企業価値の継続的向上及び総合不動産会社としての地位の確立を目指し事業を推進してまいりました。その結果、当第3四半期累計期間におきましては、売上高152億40百万円(前年同期比17.6%減)、営業利益8億81百万円(前年同期比35.6%減)、経常利益1億81百万円(前年同期比61.1%減)、四半期純利益は1億6百万円(前年同期は四半期純利益0百万円)となりました。これは前年同期に解約違約金を特別損失に計上しており、当第3四半期累計期間におきましては当該事象が発生していないことから前年同期と比較して増益となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

不動産ソリューション事業

売上高134億80百万円(前年同期比18.1%減)、セグメント利益15億48百万円(前年同期比9.6%減)となりました。当事業セグメントにおいては、期初に掲げた経営計画に基づき、積極的に販売用不動産の仕入及び販売活動を行いました。不動産価額が上昇基調にある中、販売用不動産の仕入に際しては、当社の目利き力やノウハウを最大限活用し、駅近物件等の希少性の高い物件の選定に注力しました。

一方、販売面においては、当社の主力商品である「LEGALAND」の販売等を含め収益性の高い物件の販売実績の積み重ねが利益の下支えとなったものの、前年同期に大型の販売案件が含まれていたため、前年同期と比較して減収減益となりました。

受注状況につきましては、当第3四半期累計期間総受注高は88億29百万円、当第3四半期会計期間末の受注残高は16億53百万円となりました。

不動産賃貸事業

売上高10億1百万円(前年同期比27.4%減)、セグメント利益2億6百万円(前年同期比59.1%減)となりました。当事業セグメントは、当社の安定的な収益基盤の指標となるセグメントであり、当社保有の収益不動産及び販売に至るまでの所有不動産からの賃貸収入を収益の柱としております。当事業年度におきましても引き続き安定的な稼働率を維持しているものの、長期的な収益との引き合いの状況を考慮して販売用不動産を売却したための物件数の減少及び新型コロナウイルスによるインバウンドの減少から民泊需要が減少したことにより、前年同期と比較して減収減益となりました。

今後においては、引き続き保有不動産の高稼働率を維持するとともに、所有不動産を積み増すことにより更なる基盤強化を図ってまいります。

その他事業

売上高 7 億 58 百万円（前年同期比 13.3% 増）、セグメント利益 57 百万円（前年同期比 25.7% 減）となりました。主な内容としては、不動産コンサルティング事業における任意売却を中心とした不動産仲介並びに介護事業としての有料老人ホーム等の運営・管理、介護保険法に基づく介護予防支援、居宅介護支援事業を行っております。

当事業セグメントの介護事業において、新規にオープンした施設を含め、各施設において高い入居率を維持、好調に推移したものの、不動産コンサルティング事業における任意売却案件・仲介手数料の減少により、その他事業全体としては増収減益となりました。

（資産）

総資産は 352 億 60 百万円となり、前事業年度末に比べ 57 億 21 百万円減少しました。

流動資産は 290 億 11 百万円となり、前事業年度末に比べ 47 億 83 百万円減少しました。これは主として、開発用不動産完成等に伴う「仕掛販売用不動産」の 114 億 86 百万円減少及び「販売用不動産」の 68 億 17 百万円増加によるものであります。

固定資産は 62 億 48 百万円となり、前事業年度末に比べ 9 億 37 百万円減少しました。これは主として、保有目的変更等に伴う「土地」の 7 億 54 百万円減少及び「建物」の 2 億 46 百万円減少によるものであります。

（負債）

負債は 311 億 10 百万円となり、前事業年度末に比べ 58 億 59 百万円減少しました。

流動負債は 194 億 41 百万円となり、前事業年度末に比べ 13 億 98 百万円減少しました。これは主として、売却に伴う返済等による「短期借入金」の 16 億 44 百万円減少、「1 年内返済予定の長期借入金」の 6 億 26 百万円減少及び「前受金」の 7 億 58 百万円増加によるものであります。

固定負債は 116 億 69 百万円となり、前事業年度末に比べ 44 億 60 百万円減少しました。これは主として、「1 年内返済予定の長期借入金」への振替や売却に伴う返済等により「長期借入金」が 42 億 94 百万円減少したことによるものであります。

（純資産）

純資産は 41 億 49 百万円となり、前事業年度末に比べ 1 億 37 百万円増加しました。これは主として、「四半期純利益」1 億 6 百万円の計上、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による「資本剰余金」の 49 百万円増加及び剰余金の配当 18 百万円により減少したものであります。自己資本比率は、前事業年度末の 9.8% から 11.8% と増加する結果となりました。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴う会計上の見積りについては、「第 4 経理の状況 1 四半期財務諸表 注記事項（追加情報）」に記載のとおりであります。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第 3 四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2021年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年6月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,153,478	3,155,678	東京証券取引所 (マザーズ)	権利内容に何ら限定のない当社における標準的な株式であり、単元株式数は100株であります。
計	3,153,478	3,155,678		

(注) 提出日現在発行数には、2021年6月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年4月30日	-	3,153,478	-	790,091	-	700,091

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 77,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,075,500	30,755	-
単元未満株式	普通株式 578	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	3,153,478	-	-
総株主の議決権	-	30,755	-

(注) 1. 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2021年1月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が58株含まれております。

【自己株式等】

2021年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 L e T e c h	大阪府大阪市北区堂山町3 番3号	77,400	-	77,400	2.45
計		77,400	-	77,400	2.45

(注) 1. 上記は、直前の基準日(2021年1月31日)に基づく株主名簿による記載をしておりますが、当第3四半期会計期間において、2021年3月12日に実施した譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分により48,400株減少し、その後、譲渡制限付株式の無償取得により1,000株増加しております。

2. 当社は2021年2月1日付で株式会社リーガル不動産から株式会社 L e T e c h に商号変更しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(2021年2月1日から2021年4月30日まで)及び第3四半期累計期間(2020年8月1日から2021年4月30日まで)に係る四半期財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、2021年4月21日に子会社株式会社西日本ヘルスケアを設立いたしましたが、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年7月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,982,825	1,115,236
営業未収入金	215,835	202,901
販売用不動産	10,939,358	17,756,719
仕掛販売用不動産	20,006,201	8,520,163
その他	655,050	1,447,258
貸倒引当金	3,670	30,419
流動資産合計	33,795,601	29,011,858
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,960,883	2,714,309
土地	3,425,424	2,671,342
その他(純額)	31,340	18,981
有形固定資産合計	6,417,647	5,404,633
無形固定資産	35,375	30,696
投資その他の資産	733,362	813,123
固定資産合計	7,186,386	6,248,454
資産合計	40,981,987	35,260,312
負債の部		
流動負債		
営業未払金	514,613	371,723
短期借入金	5,813,636	4,169,543
1年内償還予定の社債	28,000	28,000
1年内返済予定の長期借入金	13,332,258	12,705,502
未払法人税等	99,880	81,107
賞与引当金	57,310	52,647
その他	993,999	2,032,498
流動負債合計	20,839,697	19,441,022
固定負債		
社債	74,000	46,000
長期借入金	15,732,643	11,437,976
その他	323,470	185,795
固定負債合計	16,130,114	11,669,772
負債合計	36,969,811	31,110,794
純資産の部		
株主資本		
資本金	790,016	790,091
資本剰余金	700,016	749,824
利益剰余金	2,522,178	2,609,616
自己株式	36	13
株主資本合計	4,012,175	4,149,518
純資産合計	4,012,175	4,149,518
負債純資産合計	40,981,987	35,260,312

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2019年8月1日 至2020年4月30日)	当第3四半期累計期間 (自2020年8月1日 至2021年4月30日)
売上高	18,505,999	15,240,140
売上原価	14,800,760	12,259,727
売上総利益	3,705,239	2,980,413
販売費及び一般管理費	2,336,050	2,098,475
営業利益	1,369,188	881,938
営業外収益		
受取利息	68	37
受取配当金	151	189
補助金収入	-	9,808
違約金収入	-	5,902
保険解約返戻金	30,073	81
その他	6,514	7,026
営業外収益合計	36,806	23,045
営業外費用		
支払利息	840,674	647,732
支払手数料	91,563	37,512
その他	8,854	38,699
営業外費用合計	941,092	723,944
経常利益	464,902	181,038
特別損失		
解約違約金	410,000	-
固定資産除却損	18,143	1,177
特別損失合計	428,143	1,177
税引前四半期純利益	36,759	179,861
法人税、住民税及び事業税	229,036	204,392
法人税等調整額	192,293	130,871
法人税等合計	36,742	73,520
四半期純利益	16	106,341

【注記事項】

(追加情報)

新型コロナウイルス感染拡大に伴う会計上の見積り

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

資産の保有目的の変更

保有目的の変更により、有形固定資産の一部920,645千円を販売用不動産へ振替えております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2019年8月1日 至 2020年4月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)
減価償却費	164,898千円	120,979千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 2019年8月1日 至 2020年4月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年10月30日 定時株主総会	普通株式	14,426	5.00	2019年7月31日	2019年10月31日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2019年12月20日付で譲渡制限付株式報酬としての新株発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ90,001千円増加しております。さらに、2020年2月14日付で譲渡制限付株式報酬としての新株発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ40,065千円増加しております。

これらの結果、当第3四半期会計期間末において資本金が788,066千円、資本剰余金が698,066千円となっております。

当第3四半期累計期間(自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年10月29日 定時株主総会	普通株式	18,903	6.00	2020年7月31日	2020年10月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2021年2月15日開催の取締役会決議に基づき、2021年3月12日付で、当社の従業員に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式48,400株の処分を行っております。この結果、当第3四半期累計期間において資本剰余金が49,732千円増加、自己株式が22千円減少し、当第3四半期会計期間末において資本剰余金が749,824千円、自己株式が13千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2019年8月1日 至 2020年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	不動産 ソリューション事業 (注) 2	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	16,456,949	1,380,089	17,837,038	668,960	18,505,999
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	16,456,949	1,380,089	17,837,038	668,960	18,505,999
セグメント利益	1,713,267	505,185	2,218,452	77,800	2,296,253

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産コンサルティング事業及び介護事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの不動産ソリューション事業において、営業戦略及び経営体制の強化を図るため人員配置を変更した結果、販売費及び一般管理費が減少しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	2,218,452
「その他」の区分の利益	77,800
セグメント間取引消去	-
全社費用(注) 1、2	927,064
四半期損益計算書の営業利益	1,369,188

(注) 1. 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社費用であります。

2. 全社費用において、営業戦略及び経営体制の強化を図るため人員配置を変更した結果、販売費及び一般管理費が増加しております。

当第3四半期累計期間(自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	不動産 ソリューション事業 (注) 2	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,480,452	1,001,558	14,482,010	758,129	15,240,140
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	13,480,452	1,001,558	14,482,010	758,129	15,240,140
セグメント利益	1,548,579	206,484	1,755,064	57,782	1,812,847

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産コンサルティング事業及び介護事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの不動産ソリューション事業において、意思決定の迅速化と経営活動の更なる効率化を図るため人員配置を変更した結果、販売費及び一般管理費が一部増加しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,755,064
「その他」の区分の利益	57,782
セグメント間取引消去	-
全社費用(注) 1、2	930,909
四半期損益計算書の営業利益	881,938

(注) 1. 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社費用であります。

2. 全社費用において、意思決定の迅速化と経営活動の更なる効率化を図るため人員配置を変更した結果、販売費及び一般管理費が一部減少しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2019年8月1日 至 2020年4月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	0.01円	34.25円
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	16	106,341
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	16	106,341
普通株式の期中平均株式数(株)	3,003,758	3,105,037
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	0.01円	33.55円
(算定上の基礎)		
普通株式増加数(株)	77,849	64,468
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

会社分割及び株式譲渡

当社は、2021年5月18日開催の当社取締役会において、当社の介護事業（以下「対象事業」という。）を当社が新たに設立した株式会社西日本ヘルスケアに対し、会社分割（簡易吸収分割）の方法により承継させることを決議し、同日付で吸収分割契約を締結いたしました。

加えて、2021年6月14日開催の当社取締役会において、株式会社西日本ヘルスケアの株式の全てを株式会社ニチイ学館に譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

1. 会社分割及び株式譲渡の理由

当社における対象事業は、2015年11月に住宅型有料老人ホーム「サンライフ栗東」（滋賀県栗東市）を開設して以来、順調に拡大を続け、滋賀県、京都府及び大阪府に合計7施設の住宅型有料老人ホーム、グループホーム・小規模多機能型居宅介護及びサービス付き高齢者向け住宅を運営するに至っております。

当社の経営資源の最適配置を実行するとともに、対象事業に関する資本政策の自由度の向上を目的として、簡易吸収分割の方法により対象事業を株式会社西日本ヘルスケアに移管し、介護事業専門の法人として運営することを決議いたしました。当社が展開している不動産ソリューション事業並びに情報通信技術からなる中核事業とのシナジーが見込みづらいことから、施設利用者への安定的なサービス供給を第一義として、対象事業をさらに成長させ得る企業への譲渡を模索しておりました。

株式会社ニチイ学館は、「社業の発展を通して豊かな人間生活の向上に貢献する」という経営理念のもと、教育、介護、医療、保育等の人々の生活に関わりの深い分野で事業活動を行っております。当社は、株式会社ニチイ学館が有する訪問介護などの在宅系介護サービス及び有料老人ホーム等の居住系介護サービスに係る運営ノウハウと安定した財務基盤により、株式譲渡が施設利用者への安定的なサービス供給及び株式会社西日本ヘルスケアの中長期的な成長に資するものと考え、譲渡することを決議いたしました。

2. 会社分割する事業の内容、規模

(1) 事業の内容

有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の設置・運営・管理、介護保険法に基づくグループホームの設置・運営・管理、小規模多機能型居宅介護、訪問介護事業を含む指定介護及び介護予防事業

(2) 事業の売上高（2020年7月期）

売上高：886,847千円

3. 会社分割の形態

当社を吸収分割会社とし、新設会社を吸収分割承継会社とする吸収分割

4. 会社分割に係る承継会社の名称及び概要

名称 : 株式会社西日本ヘルスケア

所在地 : 大阪府大阪市北区堂山町3番3号

代表者 : 代表取締役社長 水向 隆

事業内容 : 有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の設置・運営・管理、介護保険法に基づくグループホームの設置・運営・管理、小規模多機能型居宅介護、訪問介護事業を含む指定介護及び介護予防事業

資本金 : 1,000千円

承継する資産、負債の項目及び帳簿価額

資産 : 117,248千円 (2021年7月1日時点想定)

負債 : 76,428千円 (2021年7月1日時点想定)

(注) 上記は2021年5月18日時点で試算した金額であり、実際に承継する資産・負債の金額は、上記金額から変動する可能性があります。

5. 会社分割日及び株式譲渡日

2021年7月1日(予定)

6. 株式譲渡価額

譲渡の相手先との秘密保持義務に基づき非公表とさせていただきますが、入札手続きを経て譲渡の相手先を決定し、協議のうえで譲渡価額を決定しております。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年6月14日

株式会社 L e T e c h
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人
大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野村 利宏

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池田 哲雄

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社 L e T e c h の2020年8月1日から2021年7月31日までの第21期事業年度の第3四半期会計期間(2021年2月1日から2021年4月30日まで)及び第3四半期累計期間(2020年8月1日から2021年4月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社 L e T e c h の2021年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。